

歯学部

豊かな人間性を基盤として、医療・保健・福祉を通して健康長寿の推進への情熱と、教育・研究を通して人類の知を発展させる意欲にあふれた人材に成長できる人物を求めています。

■口腔保健学科

人間的な優しさをもち、口腔保健及び福祉の専門知識と技能を身につけ健康長寿の推進に貢献できる、次のような人物を求めています。

●求める人物像

関心・意欲・態度

- ・学習意欲・好奇心が旺盛で、チャレンジ精神のある人
- ・歯や口の健康に興味をもち、歯科の病気の予防に貢献したいと考える人
- ・高齢者や障害者などに関する現代社会・地域社会の諸問題を見据え、その解決に貢献したいと考える人

表現力

自分の考えや意見を論理的に説明できる人

知識・教養

本学科の専門分野を学び、将来にわたって学びを継続するために、高等学校等で学ぶ全領域の科目をバランスよく修得した人*

思考力・判断力

今までの知識・教養をもとに思考を深めて適切に判断できる人

協働性

チーム医療における問題解決のために、職種や世代、考え方にとらわれることなく、対等の立場で協力できる人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容

英語—基礎的なコミュニケーション能力や読解力を身につけておく。

理科—理科の学習を通じて自然科学に深い関心をもち、その基礎的な考え方を身につけておく。

国語—国語の学習を通じて、現代人としての常識的な知識とともに、日本語による論理的な記述力やコミュニケーション能力を身につけておく。

数学—単に公式を暗記し問題に当てはめるだけではなく、論理的な思考を展開するために必要な理解力と応用力を身につけておく。

地歴・公民—地歴・公民に広く関心をもち、多様な価値観や世界観、考え方があることを理解しておく。

●入学者選抜の基本方針

一般入試（前期日程）

大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を評価し、個別試験では「思考・判断力」「知識・教養」「関心・意欲・態度」「表現力」「協働性」を評価します。知識のみならず、学ぶ意欲や、自分で課題を発見し、主体的に判断・行動する資質（確かな学力）をもつ人を総合的に選抜します。

一般入試（後期日程）

大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を重点的に評価します。個別試験では個人面接を行い、口腔保健に対する「関心」や「意欲」、さらには「協働性」を評価し、それを表現できる人を総合的に選抜します。

推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す）〈主体性・表現力重視型〉

大学入試センター試験で「思考力・判断力」「知識・教養」を評価します。個別試験では、2段階に渡って「関心・意欲・態度」「表現力」を重点的に評価し、「協働性」を合わせて評価します。高等学校等段階における多様な能力、口腔保健に対する「関心」や「意欲」、さらには「協働性」を評価し、それを深く表現できる人を総合的に選抜します。

●入学者選抜方法における選抜内容

入学者選抜方法	該当選抜区分	選抜内容
個人面接	一般（前期）	<p>＜一般（前期）・一般（後期）＞ 複数の面接担当者による個人面接を行う。提出書類も参考にしつつ、志望理由を中心に面接を行う。面接の点数化は行わないが、すべての面接担当者が不適格と判定した場合は、大学入試センター試験及び個別試験等の成績にかかわらず不合格とする。</p> <p>＜推薦Ⅱ＞ 複数の面接担当者による個人面接を行う。提出書類も参考にしつつ、志望理由を中心に面接を行う。「関心・意欲・態度」「表現力」「協働性」を評価するため、口腔保健に関するテーマを提示して、その見解・考察を簡潔に述べてもらう。特定の教科の学力を問うものではない。面接は 300 点満点で評価し、120 点以下のものは不合格とする。</p>
	一般（後期）	
	推薦Ⅱ	
調査書*	推薦Ⅱ	<p>調査書では高等学校での生活状況（特別活動・指導上の参考となる諸事項等）を重点的に評価し、学習の記録を参考とする。なお、資格・検定試験の成績等のほか、プロジェクト活動やボランティア活動の実績、海外留学等の多様な経験がある場合は、個人面接においても参考資料とするため、具体的に記入しておくこと。</p>

●入学者選抜方法における重点評価項目〔入学者選抜方法と求める人物像との関係性〕

入学者選抜方法	該当選抜区分	関心・意欲・ 態度	表現力	知識・教養	思考力・ 判断力	協働性
（センター試験）	一般（前期）					
	一般（後期）			○	○	
	推薦Ⅱ					
個別学力検査 ＜教科＞	一般（前期）			○	○	
個人面接	一般（前期）					
	一般（後期）	○	○			○
	推薦Ⅱ					
調査書*	推薦Ⅱ	○				○

*一般入試（前期）、一般入試（後期）においては調査書を参考とする。